

令和6年度第2回「千歳市子ども・子育て会議」会議録【公表用一要約版】

日 時	令和6年9月3日（火）9時30分～10時35分	
会 場	千歳市社会福祉協議会2階 会議室2・3	
出 席 者	委員 ※50音順	市（事務局）
	会 長 長谷川 誠	こども福祉部長 浅井 雅樹
	委 員 伊崎 亜美	こども福祉部次長 古島 知明
	委 員 石岡 くに子	こども政策課長 黒田 大
	委 員 太田 智逸	こども政策係長 大野 晃史
	委 員 岡田 里枝	こども政策係主任 本間 公博
	委 員 押見 尚子	こども政策係主任 池内 真鶴
	委 員 桑野 佳子	保育係長 濱元 大輔
	委 員 佐々木 朋美	給付係長 佐々木 拓人
	委 員 佐野 瑠美	市（関係部署）
	委 員 南家 愛理	保健福祉部母子保健課長 金川 律子
	委 員 西 博康	こども家庭課長 前田 陽子
	委 員 橋元 久人	子育て総合支援センター長 細貝 貴生
委 員 松本 邦恵	児童発達支援センター長 松本 純子 教）企画総務課長 井戸川 邦彦	
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	1名（北海道新聞記者）	

1 開会

委員数15人中13名の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認（1名途中出席）。

2 部長あいさつ

3 議事等

(1) 審議事項①（仮称）千歳市こども計画骨子（修正案）について

【こども政策課長から、資料1について説明】

（会長）

ありがとうございました。皆さんご質問・ご意見はありませんか。

私からですが、基本的には「こども・若者」という表現が「こども」という形になるということ
でよろしいでしょうか。

(黒田課長)

こども計画と名称は変更させていただきたい考えなのですが、おおよそ計画の中身につきましては、
現行の子ども・子育て支援事業計画と同様の中身になると基本にご理解いただいて結構
でございます。その上で、繰り返し申し上げます、若者支援に関するところは、一部具体的
に取り扱っている事業等についても掲載しつつ理念的なところについても押さえる形で反映を
して参りたいという考えでございます。

(会長)

国も「こども大綱」という表現をしていますが、今までの子ども・子育て計画という名称から
「子育て」の文言が抜けるので、中身は大きく変わらないにしても「こども」に特化されている
形なのが慣れないというのが率直な意見・感想です。

(黒田課長)

「こども計画」としたほうが、こどもに関する施策という点では分かりやすい、といった意見
が庁内であった一方で、今、会長からお話がありましたとおり、子育て支援はどこにいった
のかと捉えられる場合もあるかと思えます。こどもを支えていくことと、それに携わる子育て家
庭を支えていくことは、表裏一体であることは従来どおり変わるものではありません。違う点と
しては、これまで親目線であったものを社会全体でこどもにフォーカスをあてて、こどもを中心
にという考えに変えていく部分かと思えます。

(会長)

そのほかにありますでしょうか。

確かに、こどもが中心というのが今のお話しでありましたが、大学でも今まで教える側が中心
で色々お話ししていたのですけれども、学生、生徒、児童を中心の表現とか、仕組みに変えてい
く流れに今なってきました、それも同じ考え方なのかと感じます。

(黒田課長)

只今申し上げた点でいいますと、今回、こども大綱の前にこども基本法というのが策定されま
して、こどもを中心に物事を考えていく、という点が明確化されました。また、子育て支援に係
る施策についても、こどもが当事者であるという観点から、こどもから意見を聴いた上で反映す
ることとされていることから、今年度に入りまして、小中高、大学生まで各意見をお聞きしてい
るところであり、もちろん反映できる施策等は見極めが必要ですが、計画への落とし込み方は悩
みどころであるものの、そういった視点があるということを改めて申し添えさせていただきたい
と思えます。

(会長)

ありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

特にご意見などが無ければ、事務局の提案どおりにさせていただきたいと思えます。

では、そのように決定させていただきます。

(1) 審議事項①について事務局提案どおり可決となり審議終了。

(2) 報告事項①第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画の評価・検証結果について

【大野係長から、資料2について説明】

(会長)

ありがとうございました。皆さんご質問・ご意見はありませんか。

基本的には大きな問題はなく進んでいるものと思いますが、3号認定の0歳児のところ、若干利用者数が利用定員を上回っているぐらいですか。

(黒田課長)

冒頭でご説明致しました1号認定、2号認定、3号認定の保育の人数、またその他の地域子ども・子育て支援事業、これは法律に定められた13個の事業であり、総じて現行計画で定めた量の見込み確保方策で概ね推移しています。一方で、保育の話に戻しますと、まだまだ保育ニーズが高い傾向にあります。繰り返し述べさせていただいているのですが、次期計画においてどのように定めていくかまだ見込みが尽きず、次期会議の時には7年度以降の見込み等々についてお示しできていると思っておりますが、なかなか難しい点ではあります。

(会長)

ありがとうございました。その他何かございますか。

無ければ、議事(2)①報告済みとさせていただきます。

(2) 報告事項②令和6年度子ども・子育て関連新規事業について

【こども政策課長から、資料3について説明】

(会長)

ありがとうございます。只今の件につきまして、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

(A委員)

子育て特典カードをアプリ上で表示できるようにしたら、カードを持ち歩かなくてもスマホは絶対持っていると思うので、もっと利用者が増えるのではと思いますがいかがでしょうか。

(大野係長)

ありがとうございます。特典カードの利便性の向上を図るため、子育てアプリに組み込むことは今、検討中ではありますが、特典カードは協賛店舗の協力で成り立っている事業でありまして、アプリに搭載することについて、今、協賛店舗にアンケートを実施しているところです。課題としては、アプリの機能として個人情報の入力ができない仕様になってしまっていて、子どもの名前も実名で入力が不要であったり、場合によっては祖父母がアプリを共有して孫の状況を見られるということも想定されていることから、協賛店舗にご無理をおかけしない範囲でご納得いただける使い方や運用を考えながら工夫しないといけない状況ですが、利便性の向上のため前向きに考えたいと思います。説明が前後しましたがけれども、このアプリは「母子モ」という名称でして、母子手帳機能がメインで、子どもの成長の記録や、色々な健診や予防接種等の管理等を母子手帳の代わりにできるというのが基本機能です。その他に、例えばちとせこセンターで行っているイベントへの予約受付機能ですとか、子育て施設情報をアプリ上で見てもらう機能があり、来月10月1日の運用開始に向けて準備を進めている状況です。

(黒田課長)

ありがとうございます。最初の子育て特典カードについて改めて申しますと、この事業は市内の協賛店舗のご厚意によって成り立っているものです。特典を受けるには、市が発行したカードを店舗で提示する必要がありますが、子育てアプリの導入を検討した当初から、子育て特典カー

ドをこれで代用できないかと考えました。その上で、デジタル化を図っていこうとすると、どうしても個人情報との兼ね合いについて整理が必要となってきます。ただ、市民の利便性向上を目的に今回導入しようとするものですので、悪用されることはないと考えておりますが、利用にあたっての仕組みを整理しているところですので、お時間を頂ければと思います。

(会長)

それではよろしいでしょうか。そのほかに何かございますか。

子どもの遊び場利用支援事業について、事業費の上限に到達した場合、年度内は利用を続けられるのでしょうか。

(黒田課長)

ありがとうございます。率直に申しますとこの金額で十分賄えるだろうという積算をさせていただき予算を計上して議決をいただいたところなのですが、仮に利用者が多く金額に不足が生じるようであれば、補正予算等々計上し、新たに議決をいただき、市民の皆様にご利用を継続していただけるように考えているところでございます。

(会長)

そのほか何かございますか。

(B委員)

子どもの遊び場利用支援事業の関係で、先程のご説明の中で、以前あった千歳の施設が使えなくなったのご説明も重々分かりつつ、千歳のようにまだまだ発展するであろう街に子どもの施設が建たないのかと思います。先日南幌町の施設に行ってみたのですが、広大な敷地で建物も立派な施設を建てられていて、子ども達も喜んで遊んでいました。あそこは子どもだけの子どものための子どもの施設という目的で位置付けられているのかと思いますが、遊戯施設だけの目的の物が千歳の中にはありますでしょうか。地域を跨いで連携して補助金を出す、というのも大事だとは思いますが、可能であれば色々な地域の色々な施設を自由に行き来できるというような市町村間の連携もしっかり整っていくのがいいのかと思いますが、千歳市としての施設があったら嬉しいなと思いました。

(黒田課長)

ありがとうございます。各自治体を拝見しますと、例えば南幌町のように国の補助金、交付金をあてて多額の財源を投入し、公共施設として新設するところもあれば、白老町のように廃校となった学校の体育館を活用して民間に来ていただいて運用している事例、後は民設民営でやっている事業があるように承知しております。その中で、安価な値段でやろうとすると、採算の取れない事業であるのだろうという認識は私共も持っています。先程恵庭市の施設を使わせて頂くに至った背景を述べたのですが、決して私共がこれで事がすべて解決した、とは考えておりません。発展し続けている街の一つとして、通年通して子どもはもちろん子育て世帯のお父さん、お母さんも交流していただけるようなところがあってもよいというのが所管部の考えです。これも繰り返しになりますが、重要課題の一つとして受け止めておりまして、引き続き色々と模索していき何かしらの形で市民の皆様にお示し出来ればと考えているところでございますので、どんどん声を上げていただければ後押しにもなるのではと思います。

(C委員)

今の子育て世帯は、「どこに行けばどういった遊び場があるか」を携帯ですぐに調べますので、私自身、南幌町や白老町の遊び場にも行きましたし、もちろん恵庭市のりりあにも行ったことは

あります。その中で、今回の事業の実施については、正直がっかりしています。りりあの開設当初は、非常に混雑していて、千歳市民が利用することについて、個人的には恵庭市に迷惑をかけている印象を持っていました。以前、千歳市内にあった「ぴっぴちとせ」は広大で立派だった記憶がありますが、りりあはそこまで広さではなく、こどもが走り回ると危険とを感じる場面がありますし、だからこそ人件費をかけて職員を手厚く配置しているのだろうと、見ていて思います。

千歳市内の屋内の遊び場というと、スポーツセンターにも幼児室があり、トランポリン等があって楽しめるのですが、子育て世帯に浸透していないように思いますので、周知が十分でないと感じます。また、スポーツセンターに空き部屋等があれば、少し手を加えて有効活用できないものでしょうか。

りりあの事業を実施するのはよいですが、恵庭市民からすると、そう大きくない施設であるのに、千歳市民の利用が増えるのは迷惑であると思っているのではないかと、親目線では感じます。

今は、近隣でも、それぞれ工夫を凝らした屋内遊び場を整備していますので、市民が求めるレベルも上がっていると思います。

(黒田課長)

貴重な意見ありがとうございます。若干言い訳になるのが恐縮なのですが、恵庭のりりあを使わせていただくにあたって、今委員からお話がありましたとおり、千歳市民が利用することによって恵庭市民の利用を圧迫してはいけないというのは当然持ち合わせておまして、そのあたりは相手側と事前協議をしっかりとさせていただいた中で、相手側からそれは基本的にはない旨確認しておりました。その上で、今年度から実際の利用にあたっては、今、委員からお話をいただいたとおり、利用者としてはそのような点を感じ、声があるということは本当に我々には分からないところなので、そのあたりは改めて本市にそうした施設を設ける必要性としてしっかりとした根拠にもなりうるものだと思いますので、真摯に受け止めさせていただきたいと思います。

先程白老町の例をあげましたけれども、当然に新しい施設を作るとなると相当のお金がかかってしまい、皆さまの前で財源のお話をするのは心苦しいのですけれども、相当なお金がかかる中で、廃屋になりそうな、なっている施設で使えないところはないかというところで、当然に探したのですが、適切な施設が見当たりませんでした。一方では、民間事業者に対しても、相当私共も働きかけをしておまして、今、千歳市も街を取り巻く状況がかなり動いてきておりますので、ここでの採算性を考えている民間事業者も少なからずいるのかなと勝手ながら推測はしていますが、やはり単体ではなかなか採算の取れる事業ではありませんので、公がなんらかの支援をしているのも実態でありますので、今頂いた意見を繰り返しになりますが、真摯に受け止めて引き続き課題解決に取り組んで参りたいと思います。

(こども福祉部長)

屋内の子どもの遊び場については、次期計画のアンケートや、6月広報の「市長への手紙」で相当数の意見をいただいております。心苦しく感じています。所管部としては、市民ニーズが高く、必要な施設として認識していますので、先ほど、恵庭市の施設利用に関するお話もありましたが、あくまで過渡期の対応として考えています。

現在、近隣市では、屋内の子どもの遊び場が整備されてきており、子育て中の保護者の満足度のバロメーターにもなってきていると捉えています。

費用等にかかるものかもしれませんが、所管部としては、必要性の認識は十分に持っていますので、熱意を持って取り組んでいきたいと考えており、委員からこのような意見を上げて頂ける

のは大変ありがたいです。ありがとうございます。

(会長)

そのほかございませんか。

この話は言い出すと終わらないように感じます。個人的には、折角こども計画とか策定しようとしている時期なので、その中に紛らせていただいてやらざるを得ないようにもっていくとかはどうでしょうか。単年度では無理だと思うので5年10年かけて充実するとかできるのがすごくいいのかなと感じます。児童館とか学童とかの住み分けにもなると思うのですが、子どもだけで普段遊びに行けるところと、休みの日に家族連れで遊びに行けるところと、両方充実するといいいのかなと思います。是非、子ども子育て会議から後押しができればいいのかなと思いますし、ご意見あればお出しただければと思います。

そのほか何かございますか。無ければ、議事(2)②を報告済みとさせていただきます。

それでは議事進行につきましては、これで終了とさせていただきます。

4 閉会